



400億円もの水道耐震化計画

「水道料金の値上げで」と答弁

先日閉会した九月市議会・日本共産党徳島市議団を代表し、中野議員が質問しました。その中で、市民に多大な負担（水道料金の値上げ）を強い「水道の耐震化計画」や、「黒字なのに値上げする国民健康保険のナカミ」が明らかにになりましたので、それを掲載します。

二十年間で四百億円、

毎年二十億円投入し、

水道管・水道施設を耐震化

この九月議会に「徳島市水道施設耐震化計画」が示されました。

この計画期間は二十年：来年度から毎年二十億円も投入：全部で四百億円もかけて水道管や水道施設を耐震化する計画です。



眉山からみた徳島市内

「財源は水道料金の値上げで」：市民負担増計画

問題は「財源」ですが、水道局長は「財源は適正な水道料金（値上げ）で確保する」と答弁：不況で苦しむ市民に多大な負担を強いる方向を示しました。

水道会計は三年後

一億三千七百万円もの赤字に

「徳島市の水道財政」ですが、三年

後の平成二十四年度には一

億三千七百万

円もの資金不

足（赤字）に

なるという財

政見通しが、九月議会に示されて

います。

その上に、毎年二十億円もの事業を推進したら、水道会計はどうなるのでしょうか？

私は、「事業計画の詳細や、財政見通しをキチンと示すよう」建設委員会で求めたんですが、まともな答弁はありませんでした。

それなのに「財源は水道料金の値上げで」と答弁する：「ムチャクチャなやり方」で、許せません。

水道会計が苦しいのは

一般会計から投入しないので

市民皆水道をすすめたから

水道会計が

苦しい原因は、

「料金収入の増加が見込めな



い」と、「減価償却費（水道管、施設等の償却費）が増え続けている」ことにあります。

「減価償却費が増え続けている」ことですが、これは「市民皆水道」計画をすすめている第四期拡張事業に基づいて、一宮・国府・多良という「収支のバランスが採れない（赤字になる）広大な地域」にも、水道管を布設したからです。

こうした地域の事業には「一般会計から水道会計に税金を投入（繰り入れ）すべき」だと求めてきたんですが、七年前、水道料金を値上げし、市民に負担を押しつけた：それが、また苦しくなったから、今度も「市民負担で」と計画しているんです。

地方財政法にも

一般会計からの投入を明記

バス事業にも投入しているのに、

水道やバスのような公営企業は、独立採算制を採っているんですが、「地方財政法第六条」には「その経営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費を除き」と明記しています。



「市民皆水道」の拡張事業



だから市バスでも、郊外の「赤字路線」には、一般会計からも繰り入れし、市民の足を確保して、市バス事業を支えているんです。「市民皆水道」の場合は、赤字でも



黒字なのに値上げした国民健康保険料(国保料) 原市政になって三回目の値上げ

財政危機だからと値上げ：
遂に全国一高い国保料に

前市長時代は市民世論に押され、国保料を値上げしませんでした。

ところが原市政が誕生して事態は一変：「財政危機だから」と二年連続で値上げし、県庁所在都市で全国第二位の高い保険料(所得に占める保険料の割合)に変貌させてしまいました。

それを今年度も値上げしたんです。その結果、県庁所在都市で全国第二位から第一位へと：全国で一番高い保険料になってしまいました。



料金収入が入ってきたんですが、「耐震化」は収入がゼロで支出ばかりの事業です。こうした事業こそ一般会計からの繰り入れで財政計画を立てるべきで、値上げを市民に押しつける事業計画は見直すべきです。

その一方で、財政危機のハズなのに、市民の莫大な税金(数百億円)を投入して、ムダな

「鉄道高架(市負担百九十億円)」や「新町西再開発」を推進しようとする原市政：許せません。

一・七億円もの黒字なのに
赤字になると説明し
九・四%も値上げした

今年の三月市議会で「平成二十年度国保会計の決算見込みが九・八



億円の赤字になるから、九・四%の国保料値上げを」と説明しました。ところが、六月議会で出された平成二十年度の「決算」では、何と一・七億円もの黒字：「市民を欺くような値上げ」に、多くの市民が怒りの声を挙げています。

日本共産党市議団は 国保料値上げに反対

日本共産党市議団は「国保料値上げに反対」でがんばっているんです

鉄道高架推進の会派からも 再考を求める意見が市議会で

飯泉知事を先頭に県が強行し、徳島市も「協調して推進」してきた『鉄道高架事業』：最近の市議会では、報道されてきたように、推進してきた会派の議員さんから「県は、鉄道高架事業予算の使い方がおかしい」という意見が続出：また、再考を求める意見がいろいろ挙げています。

牟岐線が廃止になればどうなる？ キチンと議論すべき

「徳島の鉄道高架計画」の最大の問題は、高架化するのが「文化の森駅まで」で、「大半が牟岐線」であることなんです。建設委員会(三月

が、他会派の議員さんは「市民を欺くような値上げ決算」が報告されても「ダンマリ」：こうした態度に、怒りの声が挙がっています。



他会派の賛成で値上げされてしまった国保料ですが、日本共産党市議団は「市民を欺いて値上げした分を、来年度分で値下げしよう」求めています。

議会)では、推進会派(保守系)のS議員さんが「牟岐線が廃止になると鉄道高架がムダになる：今後(牟岐線の)乗客増の見込みがあるのか?：キチンと議論すべき」など、質疑しました。

自民党の代表質問で 「抜本的な見直しを」と

この九月議会で『鉄道高架問題』を唯一採りあげたのが、鉄道高架を推進してきた自民党：N議員さんは「七百五十億円(市負担は百九十億円)もかける事業：財政状況が暗いなか突き進むと、行くも地獄、止まるも地獄になる可能性が大きい：抜本的な見直しを」と求めました。こんな鉄道高架計画は、キッパリと止めるべきです。